



## 2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 東洋水産株式会社

コード番号 2875 URL <https://www.maruchan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 住本 憲隆

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 早川 崇 TEL 03-3458-5246

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第1四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	126,697	14.0	20,267	53.7	22,917	50.0	17,633	60.0
2024年3月期第1四半期	111,181	7.8	13,190	23.0	15,277	34.8	11,023	27.5

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 29,980百万円 (17.4%) 2024年3月期第1四半期 25,537百万円 (7.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	172.66	-
2024年3月期第1四半期	107.94	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	598,883	493,203	80.3
2024年3月期	570,994	474,534	81.0

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 480,924百万円 2024年3月期 462,316百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	-	60.00	-	110.00	170.00
2025年3月期	-	-	-	-	-
2025年3月期(予想)	-	80.00	-	90.00	170.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	247,500	5.4	34,500	15.7	37,500	11.5	27,800	10.6	272.21
通期	510,000	4.3	72,000	8.0	78,000	4.2	59,000	6.0	577.71

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期1Q	110,881,044株	2024年3月期	110,881,044株
② 期末自己株式数	2025年3月期1Q	8,754,177株	2024年3月期	8,754,177株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期1Q	102,126,867株	2024年3月期1Q	102,127,159株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更に関する注記) .....	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、このところ足踏みもみられますが、緩やかに回復する状況にありました。先行きにつきましては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されますが、物価上昇や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

このような状況の中、当社グループは「Smiles for All. すべては、笑顔のために。」という企業スローガンの下で「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことを責務と考え取り組むとともに、厳しい販売競争に対応するため、より一層のコスト削減並びに積極的な営業活動を推進してまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は126,697百万円（前年同四半期比14.0%増）、営業利益は20,267百万円（前年同四半期比53.7%増）、経常利益は22,917百万円（前年同四半期比50.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は17,633百万円（前年同四半期比60.0%増）となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間末の為替換算レートは、161.03円/米ドル（前第1四半期連結累計期間末は、144.99円/米ドル）であります。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

水産食品事業は、コンビニエンスストア向けのおにぎり用商材が好調に推移したことや、ふるさと納税返礼品の販売数量が増加したこと等から増収となりました。その結果、売上高は8,068百万円（前年同四半期比6.8%増）、セグメント利益は、販売数量の増加による増収に加え、原料価格が安定したことで仕入コストを抑えられた商材もあったこと等により259百万円（前年同四半期比94.3%増）となりました。

海外即席麺事業は、米国では前期において一部得意先の在庫調整による影響で販売数量が減少していたことに加え、当期は主力商品の「Ramen」シリーズが特売等により好調に推移したほか、「Instant Lunch」シリーズも堅調に推移いたしました。メキシコでは主力商品のカップ麺は4月に実施した価格改定後も堅調に推移し、袋麺は拡売により好調に推移いたしました。その結果、売上高は60,389百万円（前年同四半期比27.2%増）、セグメント利益は、運送費や人件費等の増加はあったものの、原材料費の減少や売上高の増加等により14,801百万円（前年同四半期比61.0%増）となりました。

国内即席麺事業は、2年連続で実施した価格改定が6月で一巡し、改定後の価格が浸透したこともあり、堅調に推移いたしました。カップ麺では主力商品の「赤いきつねうどん」「緑のたぬき天そば」が堅調だったほか、3月より新しいテレビコマーシャルを展開した「麺づくり」シリーズが好調となり、6月に麺増量企画を実施したことも相まって増収となりました。袋麺では「マルちゃん正麺」シリーズが5食入りのコストパフォーマンスの良さが評価され、引き続き好調に推移いたしました。その結果、売上高は22,255百万円（前年同四半期比1.2%増）、セグメント利益は、人件費等の増加はあったものの、5月までの価格改定の効果等により2,120百万円（前年同四半期比95.1%増）となりました。

低温食品事業は、主力商品の積極的な拡売と新商品の発売により堅調に推移いたしました。生麺では主力商品の「マルちゃん焼そば3人前」シリーズにて旬の野菜に合う味わいをテーマに季節限定商品を春・夏に各2品ずつ発売し、シリーズの活性化を図りました。その他の商品では気温が高かった影響もあり、涼味麺が全般的に好調に推移し、簡便需要に対応した「つるやか」シリーズが大幅に伸長いたしました。冷凍食品では産業給食や外食・行楽関係の需要拡大により、冷凍麺のほか、業務用商品が伸長し、惣菜向け商品等の需要も拡大いたしました。その結果、売上高は15,257百万円（前年同四半期比6.5%増）、セグメント利益は、原材料費や製造経費の増加はあったものの、売上の拡大等により2,127百万円（前年同四半期比8.5%増）となりました。

加工食品事業は、昨年4月に実施した価格改定が一巡し、改定後の価格が浸透したこともあり、物量も回復し伸長いたしました。米飯商品では需要の高い状況が続き、無菌米飯商品、レトルト米飯商品ともに好調に推移したことで増収となりました。フリーズドライ商品では昨年の価格改定や液卵不足問題等の影響による販売の落ち込みから回復し増収となりました。その結果、売上高は5,049百万円（前年同四半期比12.4%増）、セグメント利益は、人件費等の増加はあったものの、売上の拡大等により186百万円（前年同四半期はセグメント損失21百万円）となりました。

冷蔵事業は、物価上昇や円安の影響等により、原材料を中心とした輸入品は低調な荷動きとなりましたが、国内におけるアイスクリーム等を中心とした製造品の取扱いが堅調だったことで、関連する配送や付帯作業等が増加したことにより増収となりました。その結果、売上高は6,145百万円（前年同四半期比3.1%増）、セグメント利益は、設備更新等による減価償却費や物価上昇による人件費、運送費の増加等により602百万円（前年同四半期比7.1%減）となりました。

その他は、主に弁当・惣菜事業であります。売上高は9,530百万円（前年同四半期比1.6%増）、セグメント利益は331百万円（前年同四半期比46.6%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は、前連結会計年度末と比べ総資産は27,888百万円増加し、598,883百万円、純資産は18,669百万円増加し、493,203百万円となりました。この主な変動要因は、以下のとおりであります。

資産は、主に有価証券は減少しましたが、現金及び預金が増加しました。負債は、主に流動負債のその他が増加しました。純資産は、主に利益剰余金、為替換算調整勘定が増加しました。

この結果、自己資本比率は80.3%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間の業績が想定していた範囲内で推移しているため、2024年5月10日に発表した見通しを変更しておりません。今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	189,706	242,233
受取手形、売掛金及び契約資産	65,030	66,161
有価証券	65,000	36,000
商品及び製品	18,106	17,573
仕掛品	482	504
原材料及び貯蔵品	18,428	18,649
その他	6,588	5,811
貸倒引当金	△798	△806
流動資産合計	362,544	386,127
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	71,254	71,209
機械装置及び運搬具（純額）	43,987	48,523
土地	35,435	35,693
リース資産（純額）	1,448	1,376
建設仮勘定	13,611	13,324
その他（純額）	1,125	1,110
有形固定資産合計	166,863	171,239
無形固定資産		
その他	2,648	3,050
無形固定資産合計	2,648	3,050
投資その他の資産		
投資有価証券	36,605	36,182
繰延税金資産	1,323	1,136
退職給付に係る資産	55	54
その他	954	1,093
投資その他の資産合計	38,938	38,466
固定資産合計	208,450	212,756
資産合計	570,994	598,883

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	32,443	34,776
短期借入金	390	396
リース債務	288	281
未払費用	26,788	23,698
未払法人税等	5,547	4,582
役員賞与引当金	262	58
資産除去債務	9	4
その他	4,114	14,955
流動負債合計	69,846	78,753
固定負債		
リース債務	2,885	2,815
繰延税金負債	5,689	5,983
役員退職慰労引当金	325	331
退職給付に係る負債	15,864	15,776
資産除去債務	195	196
その他	1,653	1,823
固定負債合計	26,614	26,926
負債合計	96,460	105,679
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	22,941	22,941
利益剰余金	369,556	375,950
自己株式	△8,239	△8,239
株主資本合計	403,228	409,622
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,025	14,035
繰延ヘッジ損益	46	59
為替換算調整勘定	44,033	56,168
退職給付に係る調整累計額	982	1,039
その他の包括利益累計額合計	59,088	71,302
非支配株主持分	12,217	12,279
純資産合計	474,534	493,203
負債純資産合計	570,994	598,883

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	111,181	126,697
売上原価	81,466	88,007
売上総利益	29,715	38,689
販売費及び一般管理費	16,524	18,421
営業利益	13,190	20,267
営業外収益		
受取利息	1,356	2,019
受取配当金	306	353
持分法による投資利益	18	62
雑収入	499	314
営業外収益合計	2,181	2,750
営業外費用		
支払利息	53	51
雑損失	40	49
営業外費用合計	94	100
経常利益	15,277	22,917
特別利益		
固定資産売却益	1	6
投資有価証券売却益	0	512
補助金収入	13	8
特別利益合計	14	527
特別損失		
固定資産除売却損	15	38
その他	1	0
特別損失合計	17	38
税金等調整前四半期純利益	15,275	23,405
法人税、住民税及び事業税	3,582	5,343
法人税等調整額	616	327
法人税等合計	4,199	5,670
四半期純利益	11,076	17,735
非支配株主に帰属する四半期純利益	52	102
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,023	17,633



## (四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	11,076	17,735
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,731	32
繰延ヘッジ損益	112	12
為替換算調整勘定	12,505	12,135
退職給付に係る調整額	70	58
持分法適用会社に対する持分相当額	40	5
その他の包括利益合計	14,461	12,244
四半期包括利益	25,537	29,980
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	25,405	29,847
非支配株主に係る四半期包括利益	131	132

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	4,071百万円	4,114百万円

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
日本	7,503	—	21,989	14,326	4,492	5,963	54,275	9,337	63,613	—	63,613
米州	—	47,468	—	—	—	—	47,468	—	47,468	—	47,468
その他	53	—	—	—	—	—	53	46	100	—	100
売上高(注) 4	7,556	47,468	21,989	14,326	4,492	5,963	101,797	9,384	111,181	—	111,181
外部顧客への売上高	7,556	47,468	21,989	14,326	4,492	5,963	101,797	9,384	111,181	—	111,181
セグメント間の内部 売上高又は振替高	421	—	23	2	0	270	718	9	727	△727	—
計	7,978	47,468	22,013	14,328	4,492	6,233	102,515	9,394	111,909	△727	111,181
セグメント利益又は 損失(△)	133	9,195	1,086	1,959	△21	648	13,003	225	13,229	△38	13,190

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△38百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△320百万円、棚卸資産の調整額60百万円及びその他の調整額221百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に海外子会社からのノウハウ料の相殺消去額であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

4 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、その他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結財務 諸表 計上額 (注) 3
	水産食品 事業	海外即席 麺事業	国内即席 麺事業	低温食品 事業	加工食品 事業	冷蔵事業	計				
売上高											
日本	7,925	—	22,255	15,257	5,049	6,145	56,633	9,487	66,121	—	66,121
米州	—	60,389	—	—	—	—	60,389	—	60,389	—	60,389
その他	143	—	—	—	—	—	143	42	185	—	185
売上高(注) 4	8,068	60,389	22,255	15,257	5,049	6,145	117,166	9,530	126,697	—	126,697
外部顧客への売上高	8,068	60,389	22,255	15,257	5,049	6,145	117,166	9,530	126,697	—	126,697
セグメント間の内部 売上高又は振替高	318	—	14	2	0	297	633	6	639	△639	—
計	8,386	60,389	22,270	15,259	5,050	6,443	117,800	9,536	127,336	△639	126,697
セグメント利益	259	14,801	2,120	2,127	186	602	20,099	331	20,430	△162	20,267

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に弁当・惣菜事業であります。

2 セグメント利益の調整額△162百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△232百万円、棚卸資産の調整額54百万円及びその他の調整額15百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。その他の調整額は、主に営業外取引との相殺消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

4 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、その他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。